

治療の自己評価冊子に

連携機関向け3段階で情報公開

製鉄記念室蘭病院
消化器・血液腫瘍内科

製鉄記念室蘭病院（室蘭市知利別町）の消化器・血液腫瘍内科は、地域の開業医など連携医療機関向けの冊子を初めて発行した。患者らに同病院を紹介する際に役立ててもらおう。治療実績のほか、疾患別の治療の「得意・不得意」の自己評価も掲載し、同病院は「ここまで網羅した冊子は胆振管内でも珍しいのではないかと」している。

（相沢宏）

同科は春の異動期に
いる。転出などで担当医師が
変わる際、連携医療機
関にはがきを郵送して
め、各医師の専門性を
知る。ただ、医師名の紹介
冊子では、同科医師
9人の専門医資格や得

知りたいなどという声
が上がっていた。

意分野を紹介。

その上で、胃がんや
肝炎など代表的な34の
症例について、「◎」
（レベルが高い）、「○」
（対応可能）、「×」
（対応困難）の3段階
で、治療や診断の得意
・不得意を自己評価し
た。

食道がんは「診断は
可能だが、放射線治療
ができず、現時点では

十分な対応はできな
い」として×印で示し
た。一方、手術不能ま
で進行した胃がんは
「がん治療認定医が5
人常勤し、札幌医大と
共同で最先端の化学療
法も数多く実施してい
い」と話している。

同科医師の前田征洋
副院長（55）は「包み隠
さず情報公開すること
で、患者にとって有益
な医療連携に期待した
こと」から◎を付け
た。

冊子はA4判カラー
で19冊。200部作成
し今月上旬、西胆振の
連携医療機関110施
設に送付した。問い合
わせは同病院経営企画
課 ☎0143・47・
4404へ。



冊子を手にもつ内容を説明する製鉄記念室蘭病院の前田征洋副院長